

<p>学校経営方針</p>	<p>「行きたい」「行かせたい」「来てよかった」と思える魅力ある学校づくり ～「夢」「希望」そして「挑戦」～</p> <p>本校では、将来の目標を見据えて、常に高い志をもって行動できる生徒の育成に重点を置いている。そのために、生徒各自の「夢」「希望」そして「挑戦」をキーワードとして、生徒自らが主体的に取り組む態度を育成する。その取組を通して、中学生にとって「行きたい」、保護者にとって「行かせたい」、在校生や卒業生にとって「来てよかった」と思える魅力ある学校づくりに努める。</p>				<p>総合評価</p>	
<p>前年度の成果と課題</p>	<p>これまで、生徒の実態に合わせながら、充実した施設設備を最大限に活用し、創造的で独創的な多くの取組を積極的に実践することによって、①『学校の魅力づくり』及び②『入学希望生徒の確保』を学校経営の主眼点とし、学校の活性化に取り組んできたが、地元五條市域等の少子化の進行で今後の不安定要素が一層大きくなっている。 また、平成19年度からスタートした「まなびの森コース」について、一定の成果を上げてきたが、魅力あるコースづくりを更に推進するため、昨年度NEXT10プランをスタートさせた。 導入から15年になろうとするスクールバスの運行をはじめ、教育相談スーパーバイザーの単独配置による教育相談体制の構築、学校運営協議会の設置によるコミュニティ・スクールの取組及びグラウンド人工芝生化による施設・設備の充実等、10年後を視野に入れた新しい学校改革に向けて、積極的な取組を進めてきたが、今後とも、現状の課題を整理しながら、生徒・保護者の期待に応えるべく、学力の向上を図るなど更なる改善・充実を図る必要がある。</p>				<p>B</p>	
<p>本年度の重点目標</p> <p>具体的目標 ○主な具体的方策(担当)</p>		<p>評価の指標等</p>	<p>自己評価</p>	<p>成果と課題</p>	<p>改善方策等</p>	<p>学校関係者評価</p>
<p>I 魅力ある進路実現 進学指導をはじめ、魅力ある進路実現への対応</p>						
<p>①わかる授業の展開(授業力の向上) ○学習活動の工夫を図る。(教務部)</p>		<p>・生徒アンケート「五條高校では授業の方法が自分に適していて、内容がよく理解できそうである」 本年度<目標:70%以上> ・保護者アンケート「五條高校で行われている授業の内容や進め方に満足している」 本年度<目標:75%以上></p>	<p>A B</p>	<p>→本年度<結果:71.1%> (63.5%) →本年度<結果:80.0%> (85.0%) ・生徒、保護者とも満足度で目標数値をクリアできた。保護者アンケートについては昨年度よりも5%低下しているため、保護者の理解を得る方策が必要である。 ・一部の授業で習熟度別・少人数指導を導入しているが、ますます多様化する生徒に対して、更なる授業改善を含めた工夫が必要である。</p>	<p>・生徒・保護者の授業満足度を向上させるため、身に付けさせたい力を明確にし、更に授業改善に取り組む。 ・生徒の進路実現を念頭におき、生徒の主体的な学びにつなげる授業展開、課題、小テスト等、学力養成の方策を各教科で検討する。また、実力テスト等の結果を分析し、取組の検証を行う。 ・本校の学習活動について、ホームページ等を通じて保護者に周知する。</p>	<p>・評価の指標としては、アンケート結果の数値を活用することが多いが、実際の生徒の言葉も聞いてみたいし、それらに耳を傾け、改善に繋げていくことも必要である。</p>
<p>②「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善 ○授業と評価の改善、指導力向上を推進する。(教務部) ○読書活動の活性化を図る。(文化図書部)</p>		<p>・授業アンケートにおいて、1学期末の評価より2学期末の評価が向上した教員の割合の増加 本年度<目標:70%以上> ・教員アンケート「五條高校では、研究授業など、授業改善に向けた取組が活発に行われている」 本年度<目標:90%以上></p>	<p>A A</p>	<p>→本年度<結果:71.9%> (67.3%) →本年度<結果:98.0%> (94.2%) ・2項目とも昨年度の数値を上回り、また、目標値を越えて達成できた。 ・指導主事を招いた研究授業や各教科による授業公開のほか、公開授業も学期に1回以上行い、教科を超えた授業研究を行うことができた。 ・新型コロナウイルス感染防止のため、例年設置している学級文庫を取りやめ、今年度は本を各自で用意することとした。3年生は月・水・金と「朝読」が設定され、読書活動の活性化に繋げることができた。</p>	<p>・研究授業、他教科の授業参観については、主体的・対話的で深い学び(いわゆるアクティブラーニング)や観点別評価を視野に入れながら、次年度も継続する。 ・授業改善に向けた取組が今後も活発に行われるよう、これまでの本校の取組を継続する。 ・学級文庫の設置が可能かどうかも含め、読書に親しむ習慣が身に付く機会が提供できるよう検討する。 ・生徒によるPOPカード作りや教員による推薦図書紹介を充実する。</p>	
<p>③進路保障に関わる取組の充実 ○計画的・系統的な進路指導を行う。(進路指導部) ○望ましい勤労観、職業観を身に付けさせる。(進路指導部) ○生徒一人一人の進路の実現に向けて、明確な目的意識をもって学習に取り組ませる。(進路指導部)</p>		<p>・生徒アンケート(第3学年)「自分の希望する進路実現ができた」 本年度<目標:90%以上> ・生徒アンケート(全学年)「五條高校では、生徒一人一人の進路に応じて、丁寧な指導が行われている」 本年度<目標:85%以上></p>	<p>A B</p>	<p>→本年度<結果:93.3%> (89.1%) →本年度<結果:81.6%> (76.7%) ・3学年で「希望する進路実現ができた」生徒は93.3%で、目標値を上回ることができた。 ・「丁寧な進路指導」は81.6%で、前年より約5%上昇した。目標値には届いておらず、引き続き相談体制を整え、生徒それぞれの希望に添った進路指導と適切な助言を継</p>	<p>・学力育成のために各教科・学年との連携を更に進める。 ・進路閲覧室の利用促進を図り、生徒自らも自己の進路を積極的に考えることができるように指導する。 ・2学年3学期を3学年ゼロ学期と捉え、希望進路決定に向けた学力育成を図る。</p>	

			続して行うことが必要である。 ・進路講習は各教科・学年からの協力を得て実施できた。	
2 充実した学校生活 学校行事の充実と部活動の活性化				
①学校行事の精選と内容の充実 ○ 体育活動を積極的に取り組む姿勢を養う。(保健体育部) ○ 文化行事の充実を図る。(文化図書部) ○ 異文化理解を推進する。(総務部)	・各体育行事の目標参加率 <u>本年度<目標:98%以上></u> ・文化祭2日間の欠席者数 <u>本年度<目標:10人以内></u> ・本校よりの短期研修において、安定した参加人数の確保 <u>本年度<目標:12名以上></u>	A () ()	・本年度は、例年実施している体育行事を、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止した。 ・3学年においては、新型コロナウイルス感染防止に努めながら9月24日に、ドッジボール、ソフトボール、バドミントン、卓球でのクラスマッチを行った。参加率は98.5%で、目標値を上回った。 ・文化祭についても例年どおりの形での開催は中止した。その代替として文化部の活動を中心に文化発表会を昼食時間と放課後に実施した。 ・コロナ禍により、本校及び姉妹校双方からの短期研修を中止せざるを得なかった。	・来年度においても新型コロナウイルス感染症に関して、先の見えない状況ではあるが、感染拡大防止に努め、種目等も考慮した上で実施していけるよう前向きに検討する。 ・withコロナの中で、例年どおりではない、新しい形の文化祭を検討していかなければならない。 ・文化祭時に行ってきた芸術鑑賞は人権教育部と連携して11月に実施する。 ・長年培ってきた姉妹校関係を今後も継続し国際交流を推進するために、生徒や保護者への情報提供に努める。
②部活動加入率の向上 ○ 生徒会活動や部活動を積極的に奨励し、生徒の主体的活動を促進する。(生徒指導部)	・生徒アンケート「五條高校の生徒会活動は活発で、関心ももてる内容である」 <u>本年度<目標:80%以上></u> ・部活動加入率 <u>本年度<目標:80%以上></u>	B C	→本年度<結果:61.3%> (60.0%) →本年度<結果:75.0%> (76.3%) ・生徒会活動に関するアンケート結果は、61.3%と昨年度の60.0%からは上昇した。今年度は文化祭などの生徒会が活躍できる行事がほとんど中止になったことを考えれば、一般生徒に生徒会役員の活動は伝わっていると思われる。 ・クラブ加入率は、75.0%と昨年度の76.3%からは減少している。新入生の入部時期に新型コロナウイルス感染拡大の時期が重なり入部率に影響があったかもしれない。	・生徒会役員を中心に、コロナウイルス禍においても、アイデアを出しながら感染防止を徹底しつつ行事等を行えるようにしていく。また、行事だけでなく、生徒の規範意識やあいさつ励行の呼びかけなどに、生徒会役員を積極的に活用していきたい。 ・来年度当初も集会等は行えない可能性は大いにあるので、それに変わる方策を事前に用意したい。
3 安心して通える(通わせる)ことができる学校づくり きめ細やかな生徒への対応と生徒指導の充実				
①日頃から生徒及び保護者との関わりを大切にする ○ 生徒の人権意識を高める。(人権教育部)	・毎月の「人権を確かめあう日」に生徒・保護者向けの啓発文書の発行 <u>本年度<目標:年10回以上></u>	B	→本年度<結果:年9回> (10回) ・生徒、保護者向けの啓発文書を9回発行した。 ・多くの先生方に携わっていただき、特色のある文書を発行できた。 ・啓発文書について、保護者からの返信が6月以降なかった。	・啓発文書について、保護者からリアクションしやすいような仕組みを考えていく。 ・啓発文書の教室掲示など、継続した取り組みができるように工夫していく。
②共通理解、同一歩調、全校体制で指導にあたる ○ 教育相談体制を確立する。(生徒指導部) ○ 職員の人権意識の資質向上を図る。(人権教育部)	・生徒アンケート「五條高校の先生は親身になって接してくれ、気軽に相談できる」 <u>本年度<目標:75%以上></u> ・年1～2回外部から招聘した講師による研修会の実施	B B	→本年度<結果:69.3%> (66.2%) ・生徒アンケートの結果が、昨年66.2%から今年度69.3%と上昇した。目標には達しなかったが自宅学習や分散登校時にも電話やGスイート等を用い、各教員がまめに連絡をとった成果だと考えられる。 ・「デートDV防止出前講座」を実施するために、講師を招いた。 ・新型コロナウイルス感染症の影響で、人権教育部主催の校内研修会は実施できなかった。 ・校外の研修については、オンラインの研修も含めて、可能な限り参加した。	・心身に配慮を要する生徒の数が増えつつあると同時に、新型コロナウイルスで制約のある生活をしているストレスで、メンタルバランスを崩している生徒も少なからずいると思われるので、普段の声かけなどを多くしていく必要がある。 ・新型コロナウイルス感染症の対策を行った上で、様々な形態で、研修を実施する可能性を模索する。 ・本校の実態に応じた研修内容を実施していく。

						・日頃から、先生方に人権意識の啓発や、情報の提供を行っていく。		
4 外部との連携・情報発信の強化						・コロナ禍により、今年度はすべて実施することができなかった。	・コロナ禍における適切な実施方法を検討する。	・小中学校では、GIGAスクール構想がすすみ、すべての児童生徒にパソコンが与えられている。高校でのGIGAスクール構想の現状と照らし合わせて、小中高でどう繋げていくかを考えていかなければならない。
①地域と共にある学校づくりの推進 ○ 地域との連携を深める。(広報企画部)	・近隣小中学校への案内を充実させ、より多くの参加者の獲得 <u>本年度<目標:130名以上></u>	()						
②人工芝グラウンド活用による諸活動の活性化 ○ 小・中学校、地域への開放を進め、人工芝グラウンドを活用するイベントを開催する。(全分掌)								
③ホームページ等による効果的な広報活動の推進 ○ 学校ホームページや掲示板等を充実させる。(広報企画部) ○ 中学生やその保護者を対象に五條高校の魅力を情報発信する。(広報企画部)	・年間更新回数を増やし、情報のタイムリーな発信 <u>本年度<目標:200回以上></u> ・オープンキャンパスで、これまで以上に中学校や保護者へ情報発信し、より多くの参加者の獲得 <u>本年度<目標:350名以上></u>	C ()	C	C	→ <u>本年度<結果:180回></u> (200回) ・今年度は1月末日現在で181回更新した。昨年度は1月末日で234回である。学校行事等の中止が影響している。 ・本年度版『学校紹介』を作成し、中学校訪問等で活用した。 ・オープンキャンパスの代わりにe-オープンスクールと部活動体験を実施した。e-オープンスクールの申込者は中学生281名と保護者等34名、部活動体験の参加者は91名であった。	・生徒たちの日常の活動もできるだけ学校ホームページで紹介する。 ・現在のレイアウトが3年目であり、来年度は刷新したい。 ・Webでの学校紹介と参加者を制限した学校体験の併用など、コロナ禍での適切な実施方法を検討する。		
5 学校改善のための組織的取組								
①コミュニティ・スクール(学校運営協議会)の取組による学校改革と諸活動の最適化(全分掌)	・地域と学校の連携・協働の推進 ・地域の事業所でのインターンシップ体験による適切な進路選択 ・地域の方と共に行う教育活動	B			・学校運営協議会全体会2回、全日制部会2回開催 ・新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から、地域の行事も中止が相次ぎ、参加することができなかった。	・コロナ禍の収束状況に左右される点は大きいですが、今後とも、学校・家庭・地域が一体となった協働関係の構築を図る。	・コロナ禍により、対面での会議や研修の開催が困難な状況ではあるが、学校運営協議会を含め、多忙な人ほど、むしろオンラインによるリモート会議の開催にはメリットが大きいいため、積極的に取り組んでみたい。	
②個々の生徒の強みを生かした進路実現における方策の開発 ○ 進路指導に関する情報収集と情報提供を行い、教員の指導力を高める。(進路指導部)	・職員研修の開催 <u>本年度<目標:全体・学年ごとに合わせて総数5回以上></u> ・進路に関する配布物・回覧物による情報提供 <u>本年度<目標:総数10回以上></u>	B	B	B	→ <u>本年度<結果:5回></u> (6回) → <u>本年度<結果:22回></u> (35回) ・講師派遣による職員研修が実施できず、Web配信や資料による個別研修となった。 ・配布物、回覧物による情報提供は、進路情報雑誌等10回、校外研修会5回、その他進路情報7回であった。	・職員研修は今後もWeb配信等が多くなる可能性が高い。今後、学年や全体での進路研修についても検討したい。 ・入試改革が進むなかで、今後も進路情報の提供に努める。		

各分掌等の評価計画

分掌等	具体的目標	具体的方策	評価の指標等	自己評価	成果と課題	改善方策等	学校関係者評価
総務部	2-① ○ 国際理解を推進する。	・オーストラリア・ガートン校との海外短期研修を円滑に行う。	・本校よりの短期研修において、安定した参加人数の確保 <u>本年度<目標:12名以上></u> ・ガートン校よりの短期研修生のホームステイ受入れ家庭の確保	B	・コロナ禍により、双方からの短期研修を中止せざるを得なかった。	・長年培ってきた姉妹校関係を今後も継続し国際交流を推進するために、生徒や保護者への情報提供に努める。	
	4 ○ 育友会・同窓会との連携を強化する。	・育友会・同窓会との連携を密にし、学校運営に対する協力・援助を求める。 ・育友会の諸行事の活性化を図る。	・育友会・同窓会の定例会に参加し、機会に応じて学校との交流 ・保護者アンケート「五條高校では、育友会活動が熱心に行われている」 <u>本年度<目標:75%以上></u>	B	・育友会役員会を3回、企画委員会を1回開催して意見交流を図り、良好な協力・支援関係を構築できた。同窓会との関係も良好で、有効な支援を得ることができた。 ・大学見学会、文化祭への参加など多くの行事を中止し、県のPTA協議会の行事もほとんど中止となったため、アンケートを実施でき	・各方面とさらに連携して推進する。 ・育友会役員会・企画委員会の在り方を工夫し、さらに学校運営に協力・支援してもらえる体制を作る。 ・これまでの活動が継承されるよう、役員と学校担当者との連携を密にする。	

	<p>1-③ ○ 奨学金受付事務を円滑に実施する。</p>	<p>・生徒に各種奨学金の案内を行い、受付事務を円滑に進める。</p>	<p>・3年進学希望生徒に対して、日本学生支援機構奨学金及び各種奨学金の説明会の実施 本年度<目標:3回以上></p>	A	<p>なかった。</p> <p>・日本学生支援機構奨学金の申請時期が在宅教育期間中となったため、郵送等による個別対応をしながら137名の申請手続きを行った。 ・採用通知配付に際し、説明会を3回実施した。 ・事務手続きの煩雑さはかなり改善されているが、奨学金を利用することに対する意識の低い生徒・保護者も少なからずあり、返還の負担や責任の重さについて理解させ適切に利用させることの重要性を感じる。</p>	<p>・今後もきめ細かい受付事務を実施するのみならず、将来を見通した奨学金の利用ができるような指導に努める。 ・日本学生支援機構予約奨学金の申請手続きは生徒の家庭と機構との直接手続きとなるよう、機構への要望を続けたい。</p>
教務部	<p>1-① ○ 学習活動の工夫を図る。</p>	<p>・生徒の基礎学力の向上を図る。 ・生徒の実態に応じた授業展開、教材開発を行う。</p>	<p>・生徒アンケート「五條高校で行われている授業や課題、小テスト等に取り組むことで、うまく学習を進めることができてい る」 本年度<目標:70%以上></p>	A	<p>・生徒アンケート「うまく学習を進めることができている」が80.6%、「内容がよく理解できそうである」が71.1%（1学期末）。 ・保護者アンケート「授業の内容や進め方に満足している」79.6%（2学期末）。 ・3項目とも目標を達成した。 ・一部の授業で習熟度別・少人数指導を導入しているが、ますます多様化する生徒に対して、更なる授業改善を含めた工夫も必要である。</p>	<p>・生徒・保護者の授業満足度を向上させるため、身に付けさせたい力を明確にし、更に授業改善に取り組む。 ・生徒の進路実現を念頭におき、生徒の主體的な学びにつなげる授業展開、課題、小テスト等、学力養成の方策を各教科で検討する。また、実力テスト等の結果を分析し、取組の検証を行う。 ・本校の学習活動について、ホームページ等を通じて保護者に周知する。</p>
			<p>・生徒アンケート「五條高校では授業の方法が自分に適していて、内容がよく理解できそうである」 本年度<目標:70%以上></p>	A		
			<p>・保護者アンケート「五條高校で行われている授業の内容や進め方に満足している」 本年度<目標:75%以上></p>	A		
	<p>・授業アンケートにおいて、1学期末の評価より2学期末の評価が向上した教員の割合の増加 本年度<目標:70%以上></p>	A				
	<p>1-② ○ 授業と評価の改善、指導力向上を推進する。</p>	<p>・各教科の研究授業を1回以上行い、毎年2教科（輪番制）で指導主事を招いて実施する。 ・指導主事を招いた研究授業では、研究協議に教科の教員が全員参加できるよう努める。 ・他教科の任意の授業を参観する期間を設け、参観希望授業の集約や調整、時間割変更を確実にを行う。</p>	<p>・教員アンケート「五條高校では、研究授業など、授業改善に向けた取組が活発に行われている」 本年度<目標:90%以上></p>	A	<p>・授業アンケートにおいて、1学期末の評価より2学期末の評価が向上した教員の割合が71.9%であった。 ・教員アンケート「授業改善に向けた取組が活発に行われている」が98.0%であった。 ・3項目とも目標を達成した。 ・指導主事を招いた研究授業や各教科による授業公開のほか、公開授業も学期に1回以上行い、教科を超えた授業研究を行うことができた。</p>	<p>・研究授業、他教科の授業参観については、主體的・対話的で深い学び（いわゆるアクティブラーニング）や観点別評価を視野に入れながら、次年度も継続する。 ・授業改善に向けた取組が更に活発になるよう、これまでの本校の取組を継続する。</p>
生徒指導部	<p>○ 基本的な生活習慣を確立する。</p>	<p>・挨拶、言葉遣い、身だしなみ、時間を守ることなど、基本的な生活習慣を確立させる。</p>	<p>・年間欠席総数・・・昨年度比約10%以上の減少 令和元年度 2,700回 → 本年度<目標:2,400回未満></p>	B	<p>・年間欠席日数・・・令和2年度は2225回（1月15日時点）であるが、自宅学習、分散登校期間が長期間にわたり、登校日数が例年に比べて少なかったため、数字上は目標達成ペースで推移しているが、実際には新型コロナウイルスの感染を恐れて、登校を控えたり、微熱や体調不良による欠席は増加していると思われる。 ・年間遅刻回数・・・736回（1月15日時点）なので、目標回数を超えてしまうと思われる。 ・マスクの着用により、年度当初は挨拶をしない傾向が強かったが、日がたつにつれて、多少改善の傾向は見られるものの、以前に比べればものたりない。 ・服装については第1ボタンをとめることを中心に全教員が注意することによって、その部分では改善が見られた。</p>	<p>・今後も新型コロナウイルスの感染状況は、すぐには改善されないと思われるので、引き続き感染防止対策の徹底を図りつつ、体調管理の徹底を呼びかけていく必要がある。同時に、メンタルヘルスの面からも生徒の健康管理に注意するとともに、生活リズムに変化がないかを注視していく必要がある。 ・教員の方から積極的に挨拶をすることを継続していく。 ・第1ボタンだけでなく、化粧などについても、全教員が授業の始め等に、意識して見ていく必要がある。化粧落としを常時教室に置くようにしたい。</p>
			<p>・年間遅刻総数・・・昨年度比約10%以上の減少 令和元年度 885回 → 本年度<目標:750回未満></p>			
	<p>○ 交通安全指導の徹底を図るとともに規範意識を向上させる。</p>	<p>・街頭での交通安全指導を実施するとともに、原付免許取得者や自転車通学生徒に</p>	<p>・原付免許取得者集会、単車通学生集会、単車実技講習会、自転車通学生集会をそれぞれ開催する。 ・事故件数 令和元年度 3件 → 本年度<目標:0件></p>	A	<p>・事故件数は1月21日時点で5件で、腕を骨折した生徒もいた。また、無許可単車通学中に事故を起こし</p>	<p>・1年生に対して、入学後にも原付登校は2年次からでないと許可していないこと</p>

		<p>対して各種集会を通して安全運転の意識を高める。事故・違反ともに絶無を目指す。</p> <p>・ホームルーム活動を通して、規範意識や人を思いやる態度を育成し、豊かな人間関係を築かせる。</p>	<p>・違反件数 <u>令和元年度 4件 → 本年度<目標:0件></u></p> <p>・外部講師による生活安全講演会を実施する。</p> <p>・生徒アンケート「あなたは服装や頭髪など学校の規則や決まりをきちんと守っていますか」 <u>令和元年度 97.0% → 本年度<目標:98%以上></u></p>	B	<p>た生徒もいた。</p> <p>・交通違反は8件で、原付定員外乗車、ノーヘル、自転車の定員外乗車などがあった。</p> <p>・「あなたは服装や頭髪など学校の規則や決まりをきちんと守っていますか」のアンケート結果は97.2%だった。</p> <p>・今年度は、新型コロナウイルス感染拡大により、単車通学生の単車実技指導が実施できなかった。</p>	<p>を再度連絡する。</p> <p>・ほとんどの生徒は規則を守ろうという意識があるが、一部の生徒の意識が低いので、継続的に指導していく必要がある。</p>		
	<p>2-②、3-②</p> <p>○ 生徒会活動や部活動を積極的に奨励し、生徒の主体的活動を促進する。</p>	<p>・生徒会執行部の活動の活性化を図り、魅力ある実践活動を目指す。</p> <p>・部活動加入に向けた取組を工夫し、部活動加入率を向上させる。</p> <p>・各部に所属する生徒一人一人の所属感、使命感、活動意欲の高揚を図るため集会を開催する。</p>	<p>・生徒アンケート「五條高校の生徒会活動は活発で、関心もてる内容である」 <u>令和元年度 60.0% → 本年度<目標:80%以上></u></p> <p>・部活動加入の増加 <u>令和元年度 76.3% → 本年度<目標:80%以上></u></p> <p>・キャプテン・部長会議の複数回開催</p>	B	B	<p>・生徒会活動に関するアンケート結果は、61.3%と昨年度の60.0%からは上昇した。今年度は文化祭などの生徒会が活躍できる行事がほとんど中止になったことを考えれば、一般生徒に生徒会役員の活動は伝わっていると思われる。</p> <p>・クラブ加入率は、75.0%と昨年度の76.3%からは減少している。新入生の入部時期に新型コロナウイルス感染拡大の時期が重なり入部率に影響があったかもしれない。</p> <p>・部員集会は実施できなかった。</p>	<p>・生徒会役員を中心に、コロナ禍においても、アイデアを出しながら感染防止を徹底しつつ行事等を行えるようにしていく。また、行事だけでなく、生徒の規範意識やあいさつ励行の呼びかけなどに、生徒会役員を積極的に活用していきたい。</p> <p>・来年度当初も集会等は行えない可能性は大いにあるので、それに変わる方策を事前に用意したい。</p>	
	<p>3-①②</p> <p>○ 教育相談体制を確立する。</p>	<p>・教育相談体制のもと支援を必要とする生徒（不登校傾向を示す生徒や特に困難な課題をもつ生徒等）やその保護者を対象に、外部機関と連携を図り、カウンセリングを受ける機会を広げる。</p>	<p>・悩みを抱える生徒の早期発見、早期対応、予防的な取組の実践</p> <p>・当該生徒対象にケース会議を開き、対応を検討する。</p> <p>・生徒アンケート「五條高校の先生は親身になって接してくれ、気軽に相談できる」 <u>令和元年度 66.2% → 本年度<目標:75%以上></u></p>	B		<p>・生徒アンケートの結果が、昨年66.2%から今年度69.3%と上昇した。目標には達しなかったが自宅学習や分散登校時にも電話やGスイート等を用い、各教員がまめに連絡をとった成果だと考えられる。</p>	<p>・心身に配慮を要する生徒の数が増えつつあると同時に、新型コロナウイルスで制約のある生活をしているストレスで、メンタルバランスを崩している生徒も少なからずいると思われるので、普段の声かけなどを多くしていく必要がある。</p>	
進路指導部	<p>1-③/4-③</p> <p>○ 計画的・系統的な進路指導を行う。</p> <p>○ 望ましい勤労観、職業観を身に付けさせる。</p>	<p>・集会や説明会等を行うことで、望ましい勤労観、職業観を含め、自己の進路について広く深く考えさせる。</p>	<p>・集会、説明会等の実施 <u>本年度<目標:10回以上></u></p> <p>・上記実施状況について、ホームページによる情報発信 <u>本年度<目標:10回以上></u></p>	B		<p>・校内の集会、説明会、講習会は、進学6回と就職3回実施。校外の説明会は中止。インターンシップは1回ではあるが実施。</p> <p>・情報発信は、校外の説明会が中止になるなか4回行った。</p>	<p>・計画的、系統的な進路指導を行うためにHRを中心に「夢の扉」を活用する。</p> <p>・集会、説明会は各学年生徒の進路志望を把握し、その状況にできるだけ合った内容になるように今後も検討を続ける。</p> <p>・集会、説明会後は速やかに情報発信できるように努める。</p>	<p>・仕事は実際に経験してみても分かることが多い。インターンシップなどが大事である。また、実際に現場での体験が難しい場合は、インターネットを利用することで、実体験に近い疑似体験をさせることも可能ではないか。</p>
	<p>1-③/5-②</p> <p>○ 生徒一人一人の進路の実現に向けて、明確な目的意識をもって学習に取り組ませる。</p>	<p>・進路決定に向けたホームルーム活動や相談活動を充実させる。</p>	<p>・生徒アンケート(第3学年)「自分の希望する進路実現ができた」 <u>令和元年度89.1%(分母:進路決定者) → 本年度<目標:90%以上></u></p> <p>・生徒アンケート(全学年)「五條高校では、生徒一人一人の進路に応じて、丁寧な指導が行われている」 <u>令和元年度 76.7% → 本年度<目標:85%以上></u></p> <p>・各学年進路講習の企画立案総数 <u>本年度<目標:5回以上></u></p>	B	B	<p>・「希望する進路実現ができた」3年生徒は93.3%であった。</p> <p>・「丁寧な進路指導」は81.6%であり、目標の数値には及ばなかったが、80%台を回復できた。</p> <p>・各教科、学年の協力を得ることで進路講習を実施できた。</p>	<p>・学力育成のために各教科、学年との連携を深めるとともに生徒の志望校にあった指導を検討する。</p> <p>・気軽に進路相談ができる環境作りに努めるとともに進路閲覧室の利用を促進する。</p>	
	<p>1-③/5-②</p> <p>○ 進路指導に関する情報収集と情報提供を行い、教員の指導力を高める。</p>	<p>・進路指導に関わる職員研修の機会を適宜もつ。</p> <p>・進路指導に関する情報提供を行う。</p>	<p>・研修会については、全体・学年ごとに合わせた総数 <u>本年度<目標:5回以上></u></p> <p>・進路に関する配布物・回覧物による情報提供 <u>本年度<目標:10回以上></u></p>	B		<p>・講師派遣による職員研修が実施できず、Web配信や資料による個別研修となった。</p> <p>・配布物、回覧物による情報提供は、進路情報雑誌等10回、校外研修会5回、その他進路情報7回であった。校外も研修会は中止が多かった。</p>	<p>・職員研修は今後もWeb配信等が多くなる可能性が高い。今後、学年や全体での進路研修についても検討したい。</p> <p>・入試改革が進むなかで、今後も進路情報の提供に努める。</p>	
人権教育部	<p>3-②</p> <p>○ 職員の人権意識の資質向上を図る。</p>	<p>・人権教育推進に関する職員研修会を実施する。</p>	<p>・年1～2回外部から招聘した講師による研修会の実施</p>			<p>・「デートDV防止出前講座」を実施するために、講師を招いた。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の影響で、人権教育部主催の校内研修会</p>	<p>・新型コロナウイルス感染症の対策を行った上で、様々な形態で、研修を実施する可能性を模索する。</p>	

			B	<ul style="list-style-type: none"> は実施できなかった。 ・校外の研修については、オンラインの研修も含めて、可能な限り参加した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の実態に応じた研修内容を実施していく。 ・日頃から、先生方に人権意識の啓発や、情報の提供を行っていく。 	
1-② ○ 人権教育・道徳教育の充実を図り、人間としての在り方生き方を大切にする生徒を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育HRでの指導内容を検討する。 ・道徳教育の全体計画を作成し、道徳教育を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな人権教育年間計画の作成 ・全体計画に基づき実施し、成果を検証 ・保護者アンケート「五條高校では、生徒に人権を尊重する態度を身に付けさせようとしている。」 令和元年度 85.1% → 本年度<目標:90%以上> 	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケート「五條高校では、生徒に人権を尊重する態度を身に付けさせようとしている。」が、昨年度85.1%から今年度86.6%に微増した。 ・人権HRについて、本校の実態に応じた内容に工夫した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、本校の実態やニーズに応じた人権教育の取り組みを計画していく。
3-② ○ 生徒の人権意識を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・「人権を確かめあう日」の啓発文書の文案作成を各分掌に依頼し、多様な視点から人権について考えさせる啓発文書を配布する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の「人権を確かめあう日」に生徒・保護者向けの啓発文書の発行 本年度<目標:10回以上> 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒、保護者向けの啓発文書を9回発行した。 ・多くの先生方に携わっていただき、特色のある文書を発行できた。 ・啓発文書について、保護者からの返信が6月以降なかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・啓発文書について、保護者からリアクションしやすいような仕組みを考えていく。 ・啓発文書の教室掲示など、継続した取り組みができるように工夫していく。 	
4-① ○ 人権系の力量を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年のホームルームから人権係を2名ずつ選出し、人権意識向上のための活動を行う。 ・人権系の生徒を対象に人権にかかわる講習会を開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「人権を確かめあう日」の啓発文書配布時に、係生徒が全校生徒に向けて、その趣旨を放送によりアピール ・ボランティア活動への積極的な参加 ・講習会を実施し、クラスで人権教育の中心として活動できる力量の育成 ・人権映画会での人権係への司会等の役割指導 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・人権を確かめあう日のアピール放送、人権映画会での司会を人権係が務めた。 ・新たに、人権メッセージを人権係が考え、校内掲示を実施した。 ・新型コロナウイルス感染症の影響で、講習会やボランティア活動は実施できなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で、人権係が主体的に取り組んでいけるような仕組みを考えていく。 ・人権係を通して、活動が各生徒に還元されるような仕組みを考えていく。 	
文化図書部 2-① ○ 文化行事の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・文化行事の実施により、生徒の自主性や創造性を伸ばし、生徒自らが文化的な活動に取り組む意欲を醸成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭2日間の欠席者延べ総数の減少 令和元年度 延べ15人 → 本年度 <目標:10人以内> ・カルタ大会・おはなし会の実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルスの感染防止のため、例年どおりの文化祭を中止した。その代替として文化部の活動を中心に文化発表会を昼食時間と放課後に実施した。3年生有志による漫才などもあり、規模が小さいながらも成果を得ることができた。 ・カルタ大会とおはなし会はコロナウイルスの感染防止の観点から今年度は中止した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・withコロナの中で、例年どおりではない、新しい形の文化祭を検討していかなければならない。 ・文化祭時に行ってきた芸術鑑賞は人権教育部と連携して11月に実施する。 	
1-②/4-① ○ 図書館利用の促進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館報・図書館だよりを発行し、図書館利用を促進する。 ・五條市立図書館との連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館利用者の増加 令和元年度 延べ8,417人 → 本年度 <目標:10,000人以上> ・貸出冊数の増加 令和元年度 1,399冊 → 本年度 <目標:1,700冊以上> ・五條市立図書館との合同企画の実施 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルスの感染防止のため、図書館では座席数を半分に密集・密接にならないようして対応した。また新入生に対するオリエンテーションも中止し生徒の安全をはかった。結果図書館利用者は12月末日までで延べ5,377人、貸出し冊数は1,124冊となり、いずれも前年同時期よりも下回った。 ・『図書館便り』『図書館報』の発行は順調であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染対策として換気設備の充実やパーティションの設置などが必要である。 ・返却本の消毒、返却ポストの設置等、感染対策が施されている点を生徒に周知する。
1-② ○ 読書活動の活性化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の読書の機会を増やし、自ら読書に取り組み、自らの生活を豊かなものにしようとする態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「読書の時間」を(月)と(水)のSHRに7分設定し、考査後1週間は、全ての日にて実施。読書の習慣を身に付けさせる取組の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・例年学級文庫を各クラスに設置しているが、感染防止のため、今年度は本を各自で用意することとした。3年生は月・水・金と「朝読」が設定されており、落ち着いた雰囲気を取り組んでいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・春期休業中に課している読書感想文に苦労している生徒が増えている。書くことが苦にならないように、読書量を増やす指導を継続する。 	
保健体育部 2-① ○ 体育活動に積極的に取り組む姿勢を養う。	<ul style="list-style-type: none"> ・体育活動を通じて生徒の心身の健全な発育と体力の向上(脚力・忍耐力)を図るとともに、生徒を主体とした体育活動を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・球技大会、体育大会、耐寒金剛登山の実施 ・体育大会種目を生徒の希望を踏まえて一層の充実 ・各行事の参加率 本年度<目標:98%以上> 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度は、例年実施している体育行事を、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止した。 ・3学年においては、新型コロナウイルス感染防止に努めながら9月24日に、ドッジボール、ソフトボール、バドミントン、卓球でのク 	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度においても新型コロナウイルス感染症に関しては、先の見えない状況ではあるが、感染拡大防止に努め、種目等も考慮した上で実施していけるよう前向きに考えていきたい。 	

					ラスマッチを行った。参加率は98.5%と盛り上がった大会であった。	
	○ 体力の向上を図る。	・ 体育の授業だけでなく、自らの生活の中で体力向上を目指した運動の習慣を確立させる。(長期の休業中に何らかのトレーニングをさせる。)	・ 4月の体力測定、スポーツテストの結果を踏まえ全学年とも前年度の数値のアップ 本年度<目標:8項目中5項目以上数値アップ>	B	・ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のために、4月実施予定の体力測定・スポーツテストを2学期に実施した。在宅教育、分散登校及び、体育の授業、運動部の活動制限等により、大きく影響を受け、本年度目標としていた数値には遙かに及ばなかった。1年男子、2年男子50m走をのぞき、ほとんどの種目で昨年度の数値よりも下回っていた。	・ コロナ禍の中、教科指導(特に実技)においては体力向上に繋がるように一層努めていきたい。 ・ 本年度の運動クラブ参加率は、男子61.5%、女子31.4%で毎年減少傾向にあり、体力向上を目指す上でも加入率を上げることが、望まれる。 ・ 部活動の活性化や日々の生活での運動習慣の意識を高めることが必要である。
環境整備部	○ 校内美化を推進する。	・ 日々の清掃活動により校内美化を推進する。 ・ 大掃除を実施する。	・ 保護者アンケート「五條高校では、清掃が行き届いており、校内がきれいに整備されている」 令和元年度 42.9% → 本年度<目標:50%以上>	B	・ 保護者アンケート「五條高校では、清掃が行き届いており、校内がきれいに整備されている。」「そう思う」34.1%、「どちらかといえばそう思う」58.9%で、「そう思う」が目標に届かなかった。来年度は「そう思う」のポイントを上げたい。 ・ 清掃用具調べを年度当初に実施し、用具の充実を図った。	・ 今後も節目となる日(始業式後や定期考査最終日)に大掃除を実施する。 ・ いつも整ったきれいな環境で活動する意識を教職員と生徒が持つよう啓発する。
	○ 美化委員会活動を充実させる。	・ 当番制で花の水やり活動を進める。 ・ 通学路美化活動を実施する。 ・ 花の植え替え作業を行う。	・ 通学路清掃の実施 本年度<目標:1学期に1回実施> ・ 花の水やり 本年度<目標:毎日実施> ・ 花の植え替え 本年度<目標:2回実施>	B	・ 通学路清掃は規模を縮小し3学期に美化委員のみで実施した。 ・ 花の水やりは全校生徒の登校が始まってから実施した。 ・ 花の植え替えは予定通り年2回実施した。	・ コロナ禍ではあったが、季節の折に花を咲かせることができた。来年度も、校内外の環境美化活動を充実させたい。
	○ 防災教育を推進する。	・ 避難訓練等を実施することにより、防災意識を高め、災害から身を守る取組を進める。	・ 火災や地震等を想定した避難訓練の実施 ・ 防災教育に関する職員研修の実施	B	・ 1学期に予定していた避難訓練は中止し、2学期に防災教育ホームルームを行った。 ・ 職員研修は実施できなかった。	・ 学年別で行うなど工夫した避難訓練の実施が必要である。防災・防火HRも行う。
広報企画部	4-③ ○ 学校ホームページや掲示板等を充実させる。	・ 学校ホームページの充実を図り、保護者等にリアルタイムで学校の状況を伝える。	・ 年間更新回数を増やし、情報のタイムリーな発信 本年度<目標:200回以上>	B	・ 今年度は1月末で181回更新した。昨年度は1月末で234回である。学校行事等の中止が影響している。	・ 生徒たちの日常の活動もできるだけ学校ホームページで紹介する。
	4-③ ○ 中学生やその保護者を対象に五條高校の魅力を情報発信する。	・ 学校紹介パンフレット等の作成と発送を行う。 ・ オープンキャンパスを開催する。	・ 『学校紹介』(4,000部)を改訂し、より魅力的なものへ改善 ・ これまで以上に中学校や保護者へ情報発信し、より多くの参加者の獲得 本年度<目標:350名以上>	A	・ 本年度版『学校紹介』を作成し、中学校訪問等で活用した。 ・ オープンキャンパスの代わりにe-オープンスクールと部活動体験を実施した。e-オープンスクールの申込者は中学生281名と保護者等34名、部活動体験の参加者は91名であった。	・ 現在のレイアウトが3年目であり、来年度は刷新したい。 ・ Webでの学校紹介と参加者を制限した学校体験の併用など、コロナ禍での適切な実施方法を検討する。
	4-① ○ 地域との連携を深める。	・ 「五高スポーツ教室」「五高カルチャー講座」「コットンプロジェクト」等を実施する。 ・ 地域の行事に参加・貢献する。	・ 近隣小中学校への案内を充実させ、より多くの参加者の獲得 本年度<目標:130名以上> ・ 校内で生徒のボランティアを募り、より多くの参加生徒の確保	()	・ いずれも今年度は実施せず。	・ コロナ禍における適切な実施方法を検討する。
第1学年	○ 規範意識と基本的な生活習慣を確立させる。	・ 中学校との違いを認識し五條高校の生徒としての自覚を持たせ、挨拶の励行と遅刻や欠席をせず授業に集中して取り組む姿勢を養う。	・ 遅刻の各クラス別年間総数の平均 本年度<目標:15回未満> ・ 欠席の各クラス別年間総数の平均 本年度<目標:100日未満>	B	・ 2学期末時点でクラスあたりの遅刻総数の平均は23回、欠席総数の平均は89回であった。 ・ 心身の調子を崩し、登校に支障が出たり、挨拶できない生徒がいた。	・ 基本的な生活習慣を確立させるための指導を、強化する。 ・ 早期より仲間作りに配慮し、学校が楽しいと感じさせるような取り組みを考える。
	○ 部活動への参加を勧める。	・ 学習と部活動の両立を目指す	・ 部活動の加入率 本年度<目標:80%以上>	B	・ 部活動加入率は、76%である。	・ 年度途中からでも積極的に

		し、学校生活を意欲的に過ごす姿勢を育てる。		B		・コロナウイルス流行の影響で、部活動参加の時期が遅れたり、加入に躊躇する生徒がいた。	部活動に参加できる環境作りに努める。
	○ 基礎学力を充実させる。	・授業を最大限に活用し、家庭学習の習慣を身に付けさせる。	・平日に家庭学習を毎日する生徒の割合 本年度<目標:70%以上>	B		・まったく家庭学習をしていない生徒が、12月時点で38%と7月時点より25%増加している。	・まずは授業に集中させ、基礎学力の定着に努める。 ・小テストを有効利用する。
	○ 進路目標を明確化させる。	・自らの興味・関心に基づき、適性を探り、進路についての考えを深め、確固たる進路目標をもたせる。	・LHR等の時間を利用し、第1学年の間に進路目標が定まった者の割合 本年度<目標:80%以上>	B		・進学や就職など何らかの形で進路目標を定めている生徒は72%である。 ・分野別進路ガイダンスでは、一生懸命取り組む姿があった。	・次年度も外部講師招聘などにより、できるだけ新鮮な話題を提供することで、進路への意識を高めたい。
第2学年	○ 規範意識と基本的な生活習慣を確立させる。	・中堅学年としての自覚をもたせ、遅刻や欠席をしないで授業に集中して取り組む姿勢を養う。 ・挨拶、言葉遣い等の礼儀作法を徹底させる。	・遅刻の各クラス別年間総数の平均 本年度<目標:15回未満> ・欠席の各クラス別年間総数の平均 本年度<目標:65日未満>	C		・1月15日時点で、クラス当たりの遅刻総数の平均は33回、欠席総数の平均は98日であった。 ・挨拶しない生徒が多くなった。	・挨拶の励行と時間を守る指導を徹底する。
	○ 自主学習の定着を図る。	・課題の提出、小テストの合格に向けての準備を徹底させ、自主学習、家庭学習を習慣付ける。	・平日に家庭学習を毎日する生徒の割合 本年度<目標:80%以上>	C	B	・平日に少しでも家庭学習をする生徒は、7月の生徒アンケートで65.9%、1月の同調査でも65.9%であった。 ・課題提出が不十分であったり、小テストの不合格者も多い。	・進路実現に向けて、日々の学習の大切さを様々な機会に喚起する。 ・提出期限を厳守する指導を行う。
	○ 具体的な進路目標を設定させる。	・あらゆる場面を通じて、主体的に自己の進路について考えさせ、より具体的な進路目標を設定させる。	・第2学年の間に志望校、志望職種が定まった生徒の割合 本年度<目標:75%以上>	A		・1月時点で、志望校、志望職種まで定まっている者は73%である。	・HRや様々な行事を通して、さらに継続的に指導する。
第3学年	○ 規範意識と基本的な生活習慣を確立させる。	・社会人として必要な挨拶、言葉遣い等の礼儀作法、判断力、規範意識を身に付けさせる。また、残り少ない高校生活を無駄にせず、充実した日々を過ごさせる。	・最高学年としての自覚と責任をもち、時と場に応じた言動の育成 ・遅刻の各クラス別年間総数の平均 本年度<目標:40回未満> ・欠席の各クラス別年間総数の平均 本年度<目標:120日未満>	B			・学年末時点で、遅刻総数は285回、クラス別平均回数は41回、欠席総数は754日、クラス別平均は108日であった。 ・心身の不調による、特定の生徒の欠席・遅刻が多く見られた。
	○ 自主学習の定着を図る。	・卒業後の進路を見据えて、授業、進学講習等に能動的に取り組ませるとともに、家庭においても自主的な学習を定着させる。	・平日に家庭学習を毎日する生徒の割合 本年度<目標:70%以上>	C	B	・1学期は、家庭学習をほぼ毎日する生徒が多くいた(68.7%)が2学期になり、進路が決定するにつれて、学習時間が減少した(54.5%)。	・小テストや定期考査に向けての学習時間の確保を指導していく。 ・進路に向けた取り組みと、基礎学力の大切さを説いていきたい。
	○ 進路目標を決定させ、その実現に向けて取り組ませる。	・具体的な進路目標を主体的に決定し、その実現に向けて効果的、能動的に取り組ませる。 ・一人一人の進路に応じて丁寧な指導を行う。	・就職、進学の決定率 本年度<目標:90%以上> ・生徒アンケート・保護者アンケート「一人一人の進路に応じて、丁寧な指導が行われている」 本年度<目標:75%以上>	B		・ほとんどの生徒が、年内に進路を決定した(94%)。就職者については、1回目で82%、2回目でほぼ全員内定することができた。 ・生徒アンケートの結果は「思う」「どちらかといえば思う」を合わせ7月では69.2%、12月では81.7%であった。	・早い時期から、総合型入試、その後、指定校推薦が始まり、受験する生徒が多くなった。そのため、年内決定者が多くなった。